

## 〔国際会議開催〕

申請者	筑波大学 助教 佐野 幸恵	2195006
国際会議名称	International School and Conference on Network Science (NetSciX 2020)	
開催期間	2020年1月20日～1月23日	
開催場所	早稲田大学 早稲田キャンパス国際会議場 (東京都新宿区)	
申請者の役割	Publicity/Social media chair	

## 概要：

当会議 (NetSci-X 2020) では、2020年1月20日から23日まで、東京の早稲田大学にて、世界中の研究者が「ネットワーク」をキーワードに集まり、3日間の本会議と1日のスクール形式での講義が行われた。目的は「ネットワーク科学」という新しい学際融合分野の研究者が集い、自由に議論を展開し、イノベーションを促進することで科学の発展につなげることである。

招待した講演者の学術的バックグラウンドは、経営学 (Joe Labianca 教授 [アメリカ]), コンピュータサイエンス (Meeyoung Cha 准教授 [韓国]), 物理学 (Shlomo Havlin 教授 [イスラエル]) など多岐に渡った。特に Cha 准教授の基調講演では、衛星写真を使った世界の貧困状態の予測から、SNSにおけるフェイクニュース拡散に関するものまで、実空間とサイバー空間をつなぐダイナミック話題が提供された。特に SNS のような、実空間の人間ユーザとサイバー空間の機械的アルゴリズムが混在した情報ネットワークは、われわれの意思決定に大きな影響を及ぼしている。当会議の中でその理解を促進できたことは、人間と機械の調和の促進に大きく貢献できたと考える。

当会議には、最終的に 35 カ国より 364 名が集結し、活発な議論がなされた。この規模は、当初の予想を大きく上回る多様性と人数であった。さらに当会議では、次世代研究者のモチベーション向上を目的とし、Junior researcher presentation award と Poster award を設け、若手研究者を積極的に表彰した。また、日本の大学生・大学院生も多くの発表を行い、国内外の研究者から多くのフィードバックを受けた。

このように、当会議開催により、多様な参加者が国内外から集い、新たな研究シーズの発見や、人的交流など多くの成果を得ることができた。